

【環境審議会】会議概要

会 議 名	令和元年度第4回環境審議会				
事 務 局	環境部長・川口 弘、環境政策課長・須藤 純二、ごみ減量推進課長・太田 照生、足立清掃事務所長・大谷 博信、生活環境保全課長・祖傳 和美、鉄道関連事業担当課長・安岡 毅				
開催年月日	令和2年2月3日（月）				
開催時間	10時00分から11時30分まで				
開催場所	足立区役所12階1202会議室				
出席者	田中 充	水川 薫子	ぬかが和子	高山のぶゆき	水野あゆみ
	土屋のりこ	戸苺 建	小泉 俊夫	佐藤 強士	茂木 福美
	中村 重男	村田 文雄	工藤 信		
欠席者	百田 真史		松茂良みさえ		
会議次第	別紙のとおり				
資料	令和元年度第4回足立区環境審議会資料				
その他					

(田中充 会長)

ただいまから令和元年度第4回足立区環境審議会を始めます。前回、環境基本計画の改定について諮問され、これが今年の大きなテーマになりますが、本日は別の案件を審議しますので、よろしくお願い致します。

本日の出席委員を確認します。委員定数15名のうち、13名が出席していますので、本日の環境審議会は成立していることを報告します。本日の議事録署名人は、水川委員と工藤委員にお願いしたいと思います。

それでは、配布資料の確認をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

それでは、配布資料を確認します。本日、席上に配布した資料は全部で5種類です。

- 1 本日の次第
- 2 諮問書の写し
- 3 エコアイデアの審査手順について
(案)
- 4 クリップ止めの採点対象のアイデア
総合部門
- 5 クリップ止めの採点対象のアイデア
夢のアイデア部門

総合部門の中にはピンク色、夢のアイデア部門の中には黄色の採点表がつづられています。採点表をわかりやすくするため、色の紙としました。

他に前回の議事録をお渡ししていますが、資料をデータで送付した委員には、すでに送付済みです。

事務局からは以上です。

(田中充 会長)

このあと『あだちなエコアイデア』の審査になりますが、これは区長から諮問

を受け、審議会で審査することになります。事務局からお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

前回の審議会でお話したとおり、エコアイデアの審査について、区から改めて審議会に諮問する形としますので、副区長から諮問します。

(工藤信 副区長)

すでに会長に正本を、委員には写しを配布していますので、こちらを読みあげます。

<諮問書 朗読>

よろしくお願いいたします。

(田中充 会長)

諮問書はお手元にあると思います。このかたちで区長から諮問がありました。諮問の内容は、あだちなエコアイデアの最優秀等の選考です。審査の手順について事務局からご説明をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

「あだちなエコアイデアの審査手順について」(案)をご覧ください。事前に田中会長と相談し、審査手順の案を作りました。

応募件数は全部で290件でした。この中から最優秀賞1件と優秀賞3件、お子さんのアイデアの中から夢のアイデア賞1件を、皆さんの審査で選んでいただきます。

次に、一次審査について説明します。応募件数が290件と多かったため、一次審査を実施しました。私も含め環境部職員12人が全件の中から選びました。審査方法、審査結果は記載のとおりです。また、夢のアイデア賞候補も記載のとおりです。

本日は、一次審査を通過した総合部門の16件、夢のアイデア部門の10件につ

いて、皆様に審査をお願いします。

総合部門については、アイデア性、行動可能性、環境貢献度の3項目について3段階で評価します。アイデア性とは、独自性や新規性、ユニークさ等の評価、行動可能性とは、幅広い区民・事業者等が取組めるか、手軽に行動できるかなどの評価、環境貢献度は、例えばごみが減る、CO₂が減る、緑が増えるなど、行動による効果の評価です。これらをA、B、Cの三段階で評価します。

次に、夢のアイデア部門は、お子さんらしいユニークな発想と、環境への効果、貢献の点で優れていると思われるものを1位から3位まで順位付けします。

次に評価結果の取りまとめについて、説明します。まず、最優秀賞は、みなさんの評価を点数化し、総合得点が最も高いアイデアとします。複数のアイデアが同点だった場合は、C評価が少ないアイデア、Cの数も同じ場合は、Aが多いアイデアを選びます。優秀賞は、アイデア性、行動可能性、環境貢献度の3つの評価項目ごとに最も得点の高いアイデアとし、同点の場合は、総合得点が高いものとしてします。

審査手順の案は以上です。

(田中充 会長)

分かりにくいと思いますので、補足も含め、私からも説明します。

事務局から事前に相談があり、件数が多いのは非常に関心が高く、結構なことですが、この場で全てを審査することは大変なので、私からある程度の絞込みをお願いしました。事務局では、部長以下10名で一次審査として、各自が全体の中から10件ずつ選びました。その結果、3人以上が選んだアイデアが16件

あったので、290件のうちこの16件を一次審査通過として、本日の審査の対象としたということです。

もうひとつは、子どもの夢のアイデア、大変ユニークで、こんなものがあつたらいいという夢、理想的なアイデアも含めて、選考することになりました。これも先ほどの部内の審査チームで検討して選んだ10件を本日審査します。

本日は、全体の総合部門と子どもの夢のアイデア部門の二つに分けて審査します。

二次審査は少し複雑です。総合部門は、それぞれのアイデアを3つの観点から3段階で審査することになります。

アイデア性は非常に優れているアイデアや着眼点がおもしろいこと、行動可能性は実際に行動が可能で多くの方が取組めること、3つ目は環境貢献度、実際に環境にいい影響を与える、効果があるということです。一つ目はアイデアの着眼点、二つ目は行動が容易で実際実行可能か、三つ目は環境への効果はどうか、この3つの観点を3段階評価で審査することにしました。

Aがいちばん良い、Bが中位、Cがあまり良くないという3段階です。それぞれの作品に3項目審査するので、少し手間がかかります。すべてオールAになる可能性もあるかもしれませんが、いずれにしても3段階で評価します。

Aを2点、Bを1点、Cを0点で、総合点を出すので、最低0点、最大6点で各作品が評価され、出席委員の総数13名の合計点をそれぞれ出します。その結果、最も上位のものが、最優秀賞です。少し手順が長いのですが、そういうことになります。

290 件も応募があったので、最優秀賞だけでなく、アイデア性、行動可能性、環境貢献度の3つの観点から最も優れた作品を、アイデア賞、行動可能性賞、環境貢献度賞という形で、優秀賞として選出することにしました。3項目の合計点が最も高いものを選びます。

仮に最優秀賞と重なった場合は、最優秀賞を優先します。例えばアイデア賞として選ばれた作品と最優秀賞の作品が重なった場合は、アイデア賞は次点を繰り上げます。

夢のアイデア部門は、10 作品の中から1つ選びます。各委員に1、2、3と順位を付けていただき、1位、2位、3位の数を総合部門と同じように点数で配分します。第1位を3点、第2位を2点、第3位を1点にして合計し、最も点数の高いアイデアを夢のアイデア賞にするということです。

大きく分けて総合部門と子どもの夢のアイデア部門それぞれ分けて、それぞれの観点で審査をする、これが審査手順の内容です。複雑ですが、ご理解いただけましたか。

それでは、総合部門の16点、夢の愛で部門の10点について、事務局から簡単にご説明ください。その後、各委員で採点をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

<資料に基づき、16 件のアイデアの概要を説明>

(田中充 会長)

なかなか難しいと思いますが、アイデア性、行動可能性、環境貢献度、それぞれの観点から評価をお願いします。

<採点が終わった方から、事務局が採点表を回収>

(田中充 会長)

続いて夢のアイデア部門の評価をお願いします。こちらは、奇抜である、ユニークである、こんなことがあったらいい等、10 点の候補の中から1位、2位、3位で順位を付け、各委員の合計点で評価をするものです。

(須藤純二 環境政策課長)

<資料に基づき、10 件のアイデアの概要を説明>

(田中充 会長)

10 作品の中から上位3つを選び、1、2、3の順位をつけてください。
<採点が終わった方から、事務局が採点表を回収>

(田中充 会長)

それでは、終わったようなので、事務局の方で集計をしてください。同点だった場合は、審査手順書のとおり、Cが少ない方を選びますが、条件が重なり選びにくい場合は、もう一度みなさんにおはかりして、順位を決めたいと思います。

先ほど諮問をいただいたので、審査結果がまとまったら、審議会から区へ答申をしなければなりません。最優秀候補として〇〇、優秀賞〇〇、夢のアイデア賞〇〇という形で、整理して最後に答申書としてまとめたいと思います。

それでは、少し時間が空きますので、報告事項の説明をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

事前送付資料の3ページをご覧ください。初めにゼロエミッション東京戦略及び重点対策の概要を説明します。

東京都は昨年12月27日に2050年にCO₂排出実質ゼロの実現に向け、「ゼロエミッション東京戦略」を策定しました。あわせて重点的に対策が必要な項目

として、気候変動適応方針とプラスチック削減のプログラムを策定し、他に ZEB ゼロエミッションビートルのプログラムも策定しました。

今後、区の環境基本計画の見直し、地域気候変動適応計画の策定にも関係しますので、今日はその概要について報告します。

4 ページ以降は、東京都で発表したゼロエミッション東京戦略の概要版です。2050 年にゼロエミッションを実現し、世界の CO₂ 排出実質ゼロに貢献する行動宣言として、位置づけられています。

「今、直面している気候危機を強く認識し、具体的な戦略をもって、実効性のある対策を講じるとともに、全ての都民に共感と協働を呼びかけ、共に気候変動に立ち向かう行動を進めていく」ため、重点的に取り組む分野として、6 分野 14 施策を体系化し、各施策で設定するゴール、マイルストーンと主なアクションが体系化されました。

次に気候変動適応方針の概要を説明します。2020 年度末までに東京都が気候変動適応計画の策定に向け動いておりますので、その前段で、適応方針を公表したものでございます。

自然災害、健康、農林水産業、水資源・水環境、自然環境の 5 分野の対策方針をとりまとめ、法に基づく地域気候適応変動センターを作ることに向けた調整が進められています。

プラスチック削減プログラムは、2050 年に CO₂ 実質ゼロのプラスチック利用と海洋プラスチックゼロを目指すことが掲げられ、東京 2020 大会で使い捨てプラスチック削減と廃プラスチックの高度リサイクルを実現していくこと、2030

年に廃プラスチックの焼却量を 2017 年比で 40%削減すること等が内容となっております。

4 ページ以降がゼロエミッション東京戦略の概要版になります。

まず、5 ページで気候変動を巡る動向、現状が記されています。CO₂ 排出量の増加に伴い、気候変動影響が地球規模で増大し、世界、日本そして東京も気候危機に直面していること、世界的にも低炭素から脱炭素にシフトしていく中、東京も大都市の責務と持続可能な成長のために社会全体の脱炭素化へと向かっていくことが不可欠ということが記載されています。

次に 6 ページには、気候危機行動宣言が記載されています。戦略の 3 つの視点として、気候変動を食い止める緩和策と既に怒り起こり始めている影響に備える適応策を総合的に展開していくこと、資源循環分野を本格的に気候変動適応対策に位置付け、都外の CO₂ 削減にも貢献すること、省エネ・再エネの拡大策に加え、プラスチックなどの資源循環分野や自動車環境対策など、あらゆる分野の取組みを強化することが記載されています。

7 ページには政策体系が載っています。左側にはエネルギーセクターから共感と協働までの 6 分野、その横には 14 政策の体系が示されています。また、2050 年度末までに東京都が目指すべき姿であるゴールに向け、チャレンジしていくことが記載されています。

8 ページ、9 ページは、各政策で設定するゴール、マイルストーンと主なアクションが記載されています。2050 年の目指すべき姿をゴール、2030 年に向け

た主要目標をマイルストーンとして書かれており、さらにマイルストーンに向けてのアクションとして、行動計画が示されています。

10 ページは、再生エネ由来CO₂フリー水素を脱炭素社会実現の柱に、というイメージで、再エネの大量導入を水素で支えるため、東京都が積極的に水素に取り組んでいくこと、水素による貯蔵・供給と発電を仲良く進めていくことが示されています。

11 ページは気候変動適応方針の概要です。東京都も2020年度末までに気候変動適応計画を策定することを考えています。これまでの緩和策に加え、適応策に取り組む必要があること、様々な分野で被害の回避・軽減に向けた考え方を示しています。具体的な施策の例として、自然災害、健康、農林水産業、水資源・水環境、自然環境について、様々な施策が示されています。

12 ページは、プラスチック削減プログラムの概要です。「資源の大量消費が引き起こす気候変動と生物多様性損失を食い止めなければいけない」「東京の資源消費の上流で生じているCO₂の削減に取り組み、世界全体でのCO₂実質ゼロに貢献」を掲げ、2050年にCO₂実質ゼロ、海洋プラスチックゼロの持続可能なプラスチック利用を目指しています。

そのためのロードマップが示されています。具体的な様々な施策の例を示しつつ、これから東京都が取り組むことが記載されています。

先ほど申し上げた通り、これから区の環境基本計画の見直しや地域気候変動適応計画の策定、また、プラスチック削減の取り組みを盛り込むにあたり、東京都を

参考にしつつ、今すでに動いている区の他の計画や取り組み項目も含め、どのように環境基本計画の中に盛り込んでいくのか、また指標の在り方なども含めて検討していきたいと思います。

報告事項1については、以上です。

(田中充 会長)

東京都が年末にいくつかの環境政策の方針を打ち出しました。実質排出量をゼロにするプログラム、気候変動の適応方針、プラスチックゴミの削減プログラムということで、これらの内容は、これから区が改定を進める環境基本計画の内容にもかかわりますので、都の方針の共通理解を得るということで、報告いただきました。

これらを踏まえ、何かご意見・ご質問はありますか。

(ぬかが和子 委員)

これから議論すると思いますが、東京都が2050年にゼロという目標がある中で、足立区の計画でもぜひ積極的な数値目標をもってほしいと要望します。

それから足立のペットボトルリサイクルは「ボトル To ボトル」で突き出しています。東京都は23区などにプラスチック容器の分別を求めています。回収したものが本当にリサイクルのルートにのるのか、廃棄されないのか、燃やされないのか、まだまだ区だけでは解決できない課題もあると思っています。ぜひそこは区も声をあげ、機運をあげなければと思います。感想と要望です。

(田中充 会長)

削減目標の設定の仕方とプラスチック対策の東京都への要望だと思います。要望あるいは感想として事務局で受け止め、今後の審議に活かしてほしいと思い

ます。

(土屋のりこ 委員)

ごみの削減は、分かりやすく対策がはっきり見えますが、その中の食品ロス対策について象徴的な出来事があったので、紹介がてら要望します。

先週末にフードパントリーという、捨てられる食品を寄付する取組みに参加しましたが、八百屋からニンジンなどの野菜が提供されました。スタッフの中で賛否が分かれ、「傷がいっぱい汚れているニンジンは食べられない」という人がいる一方で、「いや、食べられる」という人もいました。何をごみと認識するのか、価値観の違いによって捨てるか、食べようと努力するのか分かります。結果的にはたくさんのニンジンを、ありがたいと受け取ってくれましたが、何をごみと認識するか、価値観の転換といった啓発もあわせて行ってほしいと思います。

(田中充 会長)

食品ロスの問題は、清潔観あるいは衛生観も関わっていて、例えば、アメリカでは、食べ残しを持ち帰ることは割と平気ですが、日本ではあまり好まれないのではないのでしょうか。そういう観点からもう少し広い意味での普及啓発が必要という指摘かと思います。

(小泉俊夫 委員)

私は、交通安全の活動をしています。子どものときから交通安全の反射材を教え、その子たちが大人になったとき、本当の交通安全になると考えています。さっきの子どもアイデア、こういうことを盛んに進めていくことが大切だと思います。勉強ができる見学会、そしてそのアイデアを出して、アイデアを役所の人たちが形にしていくと、子どもたちの環

境に対する意識が高くなると思います。今後も、子どものアイデアコンクールを進めてほしいと思います。

(田中充 会長)

教育という観点からも、柔軟な発想や習慣づけを養うという意味でもアイデアコンクールを続けてほしい、ということと思います。

(小泉俊夫 委員)

大々的にやってほしい。

(水野あゆみ 委員)

中央本町にある再生館がなくなってしまったので、地元としては大変寂しい。若者たちはリサイクルショップで洋服を買うことに抵抗がなく、結構流行しています。すぐ捨てるのはもったいなく、みなさん関心があるので、区として、持ちこめるような場が今後もあってほしいと要望します、

また、今、子ども食堂がありますが、東京都の新規事業で大人食堂も地域でやってくことを打ち出しました。食品ロスの観点や、地域で孤立させない観点から、区でもやってほしいと要望します。

(田中充 会長)

ありがとうございました。古着のリサイクルのように、まだ使えるもの、あるいは活用できるものをリユースできる場を継続してほしいという要望でした。

今日の内容を含め、次回以降に具体的な区の環境基本計画の改定について、課題を整理していただけたらと思いますので、その段階でもご要望、ご意見をいただきたいと思います。

続いて報告事項2の説明をお願いします。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

報告事項2、竹ノ塚駅付近連続立体交

差事業の環境影響評価における事業計画変更届の提出について説明します。

工事期間の延長が生じたため、東京都の環境影響評価条例に基づき、変更届を10月25日に東京都環境局へ提出しました。変更の理由は、工事現場に鋼矢板が埋まっている状況が生じ、その撤去のため工事が遅れるため、工事期間を令和5年度まで変更しました。

11月29日に東京都環境影響審議会が開かれ、数件の助言いただきましたが、了承を得ました。内容は資料の14ページから20ページのとおりです。

工期は18ページの表の4.1-2のとおり、変更前の2020年までを鋼矢板の撤去により3年延期し、2023年の前期までになります。

報告は以上です。

(田中充 会長)

以前から都の環境影響評価条例に基づく環境アセスメントは終わって、それに基づいた事業を行っている。ところが、当初の予定よりも工事期間を延ばさないといけないので、都の審議会に報告して、了承いただいたという説明でした。

工期が延びるきっかけは何ですか。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

工事場所にかつて埋められた鋼矢板が2000枚埋まっていることが判明し、その撤去のため、3年延長することになりました。現在、撤去は順調に進んでおり、2月中には2000枚全部を撤去する予定です。

(田中充 会長)

もともと何に使われた鋼矢板がそんなに大量に埋められていたのですか。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

前の工事の土留がそのまま埋められて

いました。

(田中充 会長)

15ページの事業区間が出ておりますが、この図でいうと。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

鋼矢板が出ているのは、主に竹ノ塚駅の北側、埼玉県側に鋼矢板2000枚が埋まっていました。

(田中充 会長)

それでは、報告事項3、事後調査報告書の提出についてお願いします。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

21ページの報告事項3です。竹ノ塚駅付近連続立体交差事業の環境影響評価事後調査報告書を1から2年おきに提出しており、今回は平成29年度と30年度分の環境の事後調査報告書になります。

提出日は11月15日、提出先は東京都環境局、調査項目は、騒音・振動、廃棄物です。調査結果は東京都条例の環境影響評価の基準値以内に収まっています。

12月20日に東京都環境影響評価審議会が開かれ、特に新たな対策をとるようなご意見はありませんでしたが、今後も騒音・振動について地域住民に対し、十分配慮するよう助言がありました。

事後調査報告書の抜粋が22～30ページです。29ページに騒音・振動、建設作業騒音と建設作業振動の結果がありますが、すべての場所において基準が下回りました。今回、中央部分を工事していますので、測定地からの距離が長くなったことと、施行計画が具体化し、より振動や騒音が建設機械を使ったことが、環境負荷の低減につながったと考えます。

27ページをご覧ください。

現在工事は、西側の下り急行線が完了しています。平成29年度30年度は中央部

分、図の下り緩行線と書いてあるところの工事を行っています。その部分の工事について今回測定しましたので、測定地が住宅側から距離は長くなったこともあり、振動も少なかったと思われます。先ほど申し上げたとおり、建設機械を低振動にしたこともあり、すべて基準以下となりました。

(田中充 会長)

現場を見ていないので、なかなかイメージしづらいかもしれませんが、順繰りに高架化していて、今が下りと上りの緩行線の工事、地面を走っているのを高架化している段階で発生する工事の騒音や振動を計測し、その結果を報告いただきました。

非常に大規模の工事で、かつ東武線を走らせながらの工事なので、長い時間かけて少しずつ改良していくと思います。

(村田文雄 委員)

環境への負荷が減ったようですが、調査地点は固定化されているのですか。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

調査地点は固定し、6点あります。1番目は南から補助第260号と書いてある場所の線路の東側、2番目は、約300メートル北上したところにある日比谷線の車庫の場所の線路の東側、3番目が先ほどの日比谷線の車庫のいちばん北側の場所の線路の西側、4番目は、日比谷線の車庫から200mぐらい北側の都営の伊興アパートの線路の西側、5番目は駅の北補助261号線が通るところの線路の西側、6番目は補助第262号線から南に200m下った地点です。

(田中充 会長)

なかなかわかりにくいのですが、例えば線路の東西で分けると何地点ずつなの

でしょうか。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

失礼しました。先ほど言った6つは調査区間の数で、調査地点は16カ所です。詳細については、後ほど地図をお渡ししてご報告します。

(田中充 会長)

16地点を口で説明するのは大変なので、お願いします。いずれにしても16地点にわけて、調査や騒音を測定し、その調査の結果が29ページにあるとおり、52から76dBと幅で示されています。後ほど、調査地点を提示したものをお願いします。

工事現場付近の皆さんには、まだご迷惑をおかけすることになりますが、完成後は事故も減少し、鉄道の下をくぐるので、交通の流れも活発になるので、期待したいと思います。

(工藤信 委員)

2年後には踏切はなくなります。その後も少し道路工事は続きますが、踏切の解消は2年後です。

(田中充 会長)

それでは報告事項は、ここまでにします。

採点結果が事務局の方でまとまったようです。結果をご紹介ください。

(須藤純二 環境政策課長)

それでは、総合部門から集計結果をご報告します。最優秀が「ア.牛乳パックを再利用」です。

続いて優秀賞のうち、アイデア性は同点で「エ.身も心もポッカポカイロ」と「コ.スイッチを消そう」になりました。行動可能性は、「ウ.ティッシュ、ふきん減らす作戦」が、トップになっています。環境貢献度のトップは、「イ.

落ち葉は宝物」になりました。

アイデア性部門では、2つが同点になりましたので、この点をどうするか、審議をお願いします。

続いて裏面が夢のアイデア部門の集計結果です。「ち．地面を歩くと発電ができる！」が、夢のアイデア部門の1位になっています。

以上です。

(田中充 会長)

まず、総合部門は得点順に「牛乳パックを再利用」が60点、2位が、「イ．落ち葉は宝物」で55点。少し差がついているので、最優秀賞候補は、「牛乳パックを再利用」という結果です。

優秀賞は各部門のいちばん高い点なので、アイデア性、行動可能性、環境貢献度の3本です。環境貢献度は総合点でも2番目の「落ち葉は宝物」が最も高く評価されました。

行動可能性部門は、最優秀賞が第一位なので、続く「ティッシュ、ふきん減らす作戦」になります。アイデア性部門は点が割れて、「身も心もポッカポカイロ」「スイッチを消そう」が並び、総合点でもちょうど51点で、並んでいます。この2つ「身も心もポッカポカイロ」「スイッチを消そう」について、みなさんと協議をしたいと思います。ちなみにAの数が多いのが、「身も心もポッカポカイロ」ですが、Cの数も若干個数が多いので、甲乙つけがたいところなので、あとで相談したいと思います。

裏面の夢のアイデア部門は、総合得点が最も高い「地面を歩くと発電ができる！」というアイデアで、1位に選んだ方も5人いますので、このアイデアを選定することになります。

(工藤信 委員)

選定基準では全部1個ずつでしたが、事務局では賞品を用意できそうです。

(ぬかが和子 委員)

両方選定でよいと思います。

(田中充 会長)

委員からもアイデア性部門は、2つ甲乙つけがたいので、両方選んではというご意見をいただいておりますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、異議なしということで、最優秀賞候補を「牛乳パックを再利用」、アイデア部門は「身も心もポッカポカイロ」、「スイッチを消そう」の2作品、行動可能性部門は「ティッシュ、ふきん減らす作戦」、環境貢献度部門は「落ち葉は宝物」を優秀賞候補、このような形で最優秀賞候補1点、優秀賞候補4点を推薦したいと思います。

それから夢のアイデア部門は、「地面を歩くと発電ができる！」作品を夢のアイデア部門の賞に推したいと思います。

以上のような内容でご異議ございませんか。

<異議なし>

ありがとうございます。それではこの結果で答申書をまとめ、結果を審議会からの答申として区長に出したいと思いません。答申書については、会長に一任ということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは私の方で答申書を作成し、提出したいと思います。ありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項等ありましたらお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

長時間ご審議いただきましてありがとうございました。

今回の環境審議会は、4月30日木曜日の午前10時から予定しています。またおおむね1か月前に開催通知、1週間前に資料をお送りします。

なお、前回の審議会の後、村田委員からご提案がありました。村田委員からお願いします。

(村田文雄 委員)

前回の審議会終了後、車で来た方に駐車券をとという話が出ていたのですが、足立区の自動車のCO₂排出量は、23区でワーストであり、また、環境基本計画の行動指針でも、なるべく自動車は使わずに公共交通の利用または自転車の使うことにしています。現在実施している「地球にやさしいひとのまち」のエコ宣言でも同様の項目があり、区民向けに署名をお願いしている最中です。それらを踏まえ、われわれも少しは環境問題に関心を持ち、行動する姿勢を見せれば良いと思います。

そこで、環境審議会に出席するときはやむを得ない場合を除いて、なるべく自動車の使用をしないことを申し合わせ事項とすること、もう一点は事務局から駐車券の声かけをすべきではないこと、以上をみなさまに提案したいと思いますので、ご検討をお願いします。

(田中充 会長)

村田委員のご提案のご主旨はもっともで、排気ガスや温暖化の原因となる自動車の利用を控えたらどうかという提案でした。いかがでしょうか。

(小泉俊夫 委員)

私もそうしたいですが、どうしても仕事の関係で難しいこともあります。普段

はできるだけ車で来ないようにしていますが、どうしても時間がないときは車になってしまいます。それもだめとなると、考えなくてはならない。

私は、会社の車もハイブリッドにして、家にも上にソーラーを付けているので、今できることというのであれば、良いのですが。

(村田文雄 委員)

仕事関係で努力されていれば、それでいいと思います。普段仕事の関係で努力されているのはすごくいいと思います。

ただ少なくとも審議会に出席するときは、区民行動、事業者行動も踏まえ、やむを得なければ仕方ないですが、そういう気持ちをもって行動してもらえばいいと思います。事務局とすれば、駐車券を配ること自体が、環境を考える審議の事務局として発言するのはおかしいと思うのです。

(田中充 会長)

おそらく、提案のご主旨はなるべく自動車を利用しない方が、環境審議会という環境を議論する場では望ましいと、いうことかと思います。一方で、小泉委員のように、それぞれの事情があって、やむを得ず使う場合もあるので、そこは認めてほしいということだと思います。お互い矛盾しているところはないと思いますので、委員同士が確認をしておくことでよいかと思います。

例えばごみの分別、公共交通の利用などは、エコライフ、エコワークスタイルの基本だと思いますので、極力区民の模範とまではいかないけれど、区の環境行政を考える会議に関わっているので、それを心がけて行動していただいていると思います。

強くは言いませんが、共通の良識、前提として確認しておいた方がよいと思いました。

(川口弘 環境部長)

1点よろしいでしょうか。

今のご発言では、役所から駐車券をどうぞというのは、問題があるのではという話でした。我々も検討しましたが、やむを得ず車を使う方がいて、審議会に出席いただいている立場からすれば、駐車券は提供することは、他のお客さまとの公平性もあり、そこは禁じないで、必要な方にはお渡しをしたい。ただ、どんどん車で来てくださいということではなく、来た方は用意があるので、どうぞお使いくださいという立場です。

(村田文雄 委員)

それはいいと思います。やむを得ず、来られたときはそれなりに必要だと思います。

(小泉俊夫 委員)

普段はバスか自転車です。来ていますし、車を使うときは、エコドライブもやっています。

別の話で情報提供します。以前からコピーの紙は資源として引き取ってもらいましたが、シュレッダーごみは受け取ってもらえなかったのですが、千住元町の事業者さんが、シュレッダーしたものを受け取ることにしてくれました。ただし銀行のように、細かく繊維まで切ってしまうと、受け取れないみたいです。

(田中充 会長)

竹ノ塚の担当から、図面が出ましたので、簡単にご紹介ください。

(安岡毅 鉄道関連事業担当課長)

先ほどは失礼いたしました。少し勘違いしまして、6地点ではなく6区間、南

から16地点を、合計6区間で調査しています。

(田中充 会長)

わかりました。図のとおり線路の両側で、かなり密度濃く測定しています。

16地点の測定結果が一定のゾーンにおさまっていて、東京都の基準もクリアしているというご説明でした。

よろしいでしょうか。

それでは、本日の環境審議会はここまでとします。ありがとうございました。

(会議録署名)

令和元年度第4回環境審議会会議録記録署名員
(令和2年2月3日 開催)

会 長	田 中 亮
署 名 委 員	水 川 薫 子
署 名 委 員	工 藤 信